

◆ 日本関係船舶における海賊等事案の被害事例（2007年）

【事例 1】

〈 航行中にハイジャックされた事例 〉

アデン湾を航行中、武装した海賊が乗り込み、本船をハイジャックした。その後、ソマリア海域に連行され拘束されたが、長期間に渡り交渉を行い約1ヶ月半後に乗務員及び船体が解放された。乗組員1名が不明となっている。

【事例 2】

〈 漂流中に乗り込まれ盗難にあった事例 〉

バース待ちのため港外で漂流中、ナイフで武装した3名の賊が乗り込み、船橋の乗組員等を縛り上げたが、騒ぎに気付いた乗組員が船内警報を吹鳴したところ、本船から逃走した。被害については、係留策や救命浮環、乗組員の所持品や現金などが強奪されたほか、乗組員1名が軽い怪我を負った。

【事例 3】

〈 錨泊中に乗り込まれ盗難にあった事例 〉

錨泊中、2名の賊が船尾から乗り込み、操舵機室の鍵を壊し機関室に侵入し、乗組員を鉄パイプで脅した。気付いた乗組員が船内放送を行い招集をかけたが、乗組員が参集する間に機関予備品を強奪し逃走した。同船は自主警備対策として、船橋及び船首楼に見張りを配置していたが、船尾からの侵入には気付かなかった。

【事例 4】

〈 自主警備対策が功を奏した事例 〉

錨泊中、船尾に警備要員として配置された乗組員が、ナイフで武装した6名の賊の侵入を確認したことから、当直士官に連絡するとともに、甲板当直者を集合させ、船内警報を作動させたところ、賊は海に飛び込み、近くで待機していた小型ボートで逃走した。